

平成 30 年 2 月 23 日

研究科長 殿

審査委員

主査 田中滋城

副査 高倉伸有

副査 水出 靖



学位論文審査報告書

学位申請者	保健医療学研究科 保健医療学専攻 平成 27年度入学 氏名 西脇政子	学籍番号	5215001
申請学位	博士(鍼灸学)		
学位論文題目	A double-blind study on acupuncture sensations with Japanese style of acupuncture: comparison between penetrating and placebo needles		
成績	合格.		
審査期日	平成 30 年 2 月 13 日 ~ 2 月 28 日		

注 1 論文審査の成績は、合格又は不合格とする。

2 学位論文審査要旨を添付すること。

学位論文審査要旨

審査委員

主査 田中 滋城
副査 高倉 伸有
副査 水島 靖



学位論文提出者

保健医療学研究科 保健医療学専攻
平成 27 年度入学
氏名 西脇 政子

学位論文題目

A double-blind study on acupuncture sensations with Japanese style of acupuncture: comparison between penetrating and placebo needles

学位論文審査の要旨

本研究は、健康な50名を対象とし、従来のブラインド鍼では実現できなかった精確な刺入/圧迫深度を定めることができるダブルブラインド用の18号鍼（5mm刺入鍼、10mm刺入鍼、1mm圧迫鍼、2mm圧迫鍼）によって生じる詳細な鍼感覚、および感覚の広がり、痛み強度、ブラインド効果について検討したものである。鍼感覚については、著者らが先に Massachusetts General Hospital Acupuncture Sensation Scale (MASS)を和訳し日本で初めて信頼性と妥当性を検証した鍼感覚質問紙である日本語版MASSが使用されている。

その結果、刺入深度/圧迫深度の異なる各刺入鍼/各圧迫鍼の間では、各鍼感覚の特徴に差が認められた。ブラインドについては被験者、術者ともにほぼ成功したことが示され、鍼の推測には「ズーンと重い」「ズキズキうずく」「鈍くはっきりしない」感覚を手掛かりとしていたことが示された。また、鍼感覚が似ていた5mm刺入鍼と1mm圧迫鍼、10mm刺入鍼と2mm圧迫鍼の各組合せは、特に患者ブラインドに有用であることを示唆された。

本論文は、臨床研究に用いるブラインド鍼による刺激深度の精確さが鍼研究において重要であることを詳細に実証したものであり、体系的な鍼感覚研究の基盤になるものである。テーマの設定、先行研究の調査、実験の内容、結果とその分析が十分かつ明確に示されており学位（博士）論文に値すると判断する。

主論文公表誌 Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine
(<https://www.hindawi.com/journals/ecam/aip/8128147/>)